

第4回平群町第6次総合計画等検討委員会 会議録

【日時】令和4年1月31日（火） 9：30～12：30

【出席者】13名

【欠席者】なし

【事務局】まち未来推進室：4名、コンサル（ランドブレイン）：2名

1. 開会

2. 議事および報告事項

①基本計画について（資料1、2）

事務局：（資料説明）

小阪委員：基本計画1-1について、町には現在待機児童がおり、病児保育もないと聞いている。子どもを施設に預けて仕事に行くニーズを考慮いただきたい。また、子どもを受け入れる施設についても、無認可や託児所など検討をいただきたい。

事務局：現状について、事務局が分かる範囲でお答えする。

病児保育については西和7町で取組を行っており、西和医療センター内の「いちごルーム」で看護師常駐の対応を行っている。

また、待機児童の解消に向けて南保育園跡地を活用した保育施設の誘致に向けて動いており、令和6年度の開園を目指している。

①時代のニーズに合わせた子育て支援策の充実に「保育事業の拡充など、」とあるように、保育ニーズへの対応の検討することが記していると理解いただきたい。

松名委員：先ほど南保育園跡地の活用の話があったが、場所の確保より先にマンパワー不足への対応が大事ではないか。

事務局：誘致の検討とともに職員の確保も重要だととらえており、現在も総務防災課などが、人の確保にも努めている。

松名委員：募集を行って集まらないというのは悪い状況ではないのか。待遇や労働環境が見合わないといった問題を解決することが必要かと思う。

中山委員長：「保育事業の拡充など～」に続く文章については、場合によっては行政の対応を見込む旨を示すなど、表現の検討を行うこと。

- 小阪委員： 1-2について、障害を持つ子への加配を「ぬきとり」ではなく、「選択制」にしてほしい。様々な子どもがいるので、それぞれに合わせていただけるような教育の場としてほしい。平群町の強みの創出にもつながる。
- 事務局： 特別支援学級など配慮が必要なお子さんについて、②子どもたちの学び・こころ・からだづくりの推進（学校教育）中「配慮が必要な児童や～」に支援の充実を図る旨を記載している。また、想定される取組にも記載している。
町として不登校支援に力を入れている現状もある。
総合計画として書ける範囲として、この文面でご理解いただきたいが、ご意見については担当課に伝える。
- 岡田委員： いじめや不登校は大きな問題だと思うが、スクールカウンセラーの相談の申し込みをしても何カ月か待たないと対応されないという現状があると聞いている。現状を教えてほしい。
- 事務局： 事務局の記憶では、スクールカウンセラーは常駐しているのではなく町内の学校を持ちまわっている。ただ、困難を抱える子どもへの対応については、教育委員会部局、福祉部局、スクールカウンセラーが積極的に連携を行っている。
- 小阪委員： 小学校の先生が足りていない状況もある。担任がいないクラスがあり、保護者が不安に思っていると聞いている。
- 事務局： その状況については、事務局では把握していない。スクールカウンセラーの件と合わせて担当課と共有する。
- 松名委員： 学校施設の長寿命化とは具体的にどういうものか。施設の老朽化が進んでいるが、建て替えは何年後と設定しているのか。
- 事務局： 学校の耐用年数を延ばすことで長く使うという方針である。全国で公立施設の長寿命化計画は策定されており、平群町では中学校の長寿命化実施計画を策定中である。
- 松名委員： 財政難が大変だと思うが、結果的に立て替えた方がよくなったとまらないように努めていただきたい。
- 北川委員： 1-3について、バイパスは全線開通したため、上庄バイパスの「上庄」は不要ではないか。
- 事務局： 都市計画マスタープランなど関連計画と整合を行いつつ表記を検討する。
- 岡田委員： 「平群駅前において、生活の核となる機能の集積等、」とあるが、具体的な内容が分からない。また実現可能性についても疑わしい。

- 事務局： 駅前については、現在にぎわいの創出に努めており、利用できる公有地があり、ここ10年かけてにぎわいに寄与するものを誘致・誘導したいと考えているが、詳細については未定である。
- 北川委員： 総合文化センター横の役場庁舎用の土地を見据えた表記と捉えていたが、これまで動きがない。
- 事務局： 今は建替えに向けた基金積立の時期で、令和10年以降を見据えて計画を推進したいと考えている。
- 竹内委員： 商工会との連携について意見がある。
去年、斑鳩町・三郷町・平群町共催の産業セミナーに参加したが、平群町商工会がチラシを掲示しておらず、ホームページにも掲載していない状態だった。町と連携して発信を行ってほしい。
起業を望む人が平群町にもいると思うが、周知不足で利用できない状態となっている。
- 事務局： 頂いたご意見は担当課と共有する。
- 松名委員： 1-4について、方針に「国や県等の補助金を活用した支援策を検討し、」とあるが、町職員は国や県の補助金を全て調べているのか。
台風での補填として史跡への影響に関する補助金の案内が県からあったが、町が認識していなかったことがあった。
- 事務局： すべての職員が補助メニューを完全に理解できているかということ、できていないと言わざるを得ない。
ただ、財政難に伴い補助金活用について意欲的に取り組んでいる最中であり、今後はより意識して事業を進めたいと考えている。
- 竹内委員： 2-1②正確な行政情報の発信・提供について、スマートフォンを持っていない高齢者には配布すればよいのでは。
また、町公式LINEも高齢者にインストールするように指導すればよいと思っている。
- 事務局： 県の補助金を利用したパソコンの貸し出し事業を行うなどデジタルデバインドへの対策に取り組んでいる。
スマートフォンについてのご意見は担当課と共有する。
- 山田委員： イメージキャラクターの利用とあるが、現状は他市町村に比べて頑張っているようには見えない。町の各イベントで登場させたり、貸し出しを簡単にするなどの努力が必要ではないか。
また、時代祭りに行ったことがない職員もいると聞いて残念。職員各々が町について関心を深め、主体的な発信を行ってほしい。

- 事務局：町独自のイベント等で着ぐるみの登場機会を作っているが、さらに PR につながるような取組の検討を行う。また、職員についても平群町の理解と PR につながるような取組の検討を行う。
- 岡田委員：ふるさと納税について平群町の状況を知りたい。
- 事務局：納税額については徐々に伸びている状況である。今年度からは委託事業に切り替えたが、3,000 万程度を見込んでいる。
しかし、主要返礼品である農産物の出荷量等の問題もあり、今後も同様の伸び率で増えていくことは難しいと考えている。
- 松名委員：王寺町は農作物の特産品がないが、達磨寺の写経体験など体験型の返礼品を用意している。モノ以外のものを返礼品とするのはどうか。
- 事務局：モノ以外でもエステや宿泊プランなどを用意している。「モノ以外にも創意工夫して返礼品の充実を」ということについては、担当課に伝える。
- 山田委員：PR については何度も繰り返し発信することで浸透するということが王寺町の聖徳太子の犬で知るところになったかと思う。
平群町は優れた文化財があるにもかかわらず、浸透しないため、各関係主体が連携した広報が必要かと思う。
- 竹内委員：SNS 運用について、若者が見る Tiktok も検討いただきたい。
町長がキャラクターと一緒にダンスをしたら面白い。奈良県下でまだ例がないので、早めにやってみてはどうか。
- 事務局：Tiktok については若手職員のプロジェクト会議でも意見が出た。引き続き検討を行う。
- 中山委員長：期待する役割の「自らの SNS を活用し、～」の一文は総合計画として適当か疑問に思う。
- 小阪委員：3-1 について、メガソーラーについて記載してほしい。
- 事務局：メガソーラーについては、①里山づくりの取組による自然に包まれたまちづくりの推進において自然環境の保全に努めるとしており、個別具体的な標記はしていない。
- 松名委員：②環境美化の「竜田川体験学習など」とは何を行っているか。
- 事務局：竜田川いきもの調査隊など小学校で川の体験学習を行っている。
- 中山委員長：3-1 についてのみ総合戦略の方針が全て該当しないという状況になっている。「魅力的な地域をつくる」とは関連しないのか。
- 事務局：検討を行う。

- 山田委員：3-2について、現状と課題の「鳥獣による～」における農作物の被害状況と、②に記載されているような広域連携が適当なのか教えていただきたい。
- 事務局：狩猟免許保持者は減少・高齢化している。また、鳥獣被害は増えている。免許取得者については増員できない状況があるうえで、広域で連携を図るなどをして、対策を講じていく方針を立てている。
- 北川委員：イノシシ被害が大きい。町から捕獲用の檻を貸してもらい、罟を仕掛け、捕獲後に処理をしてもらっている。他はも各々がフェンスを設置するなど対策している。
- 松名委員：くまがしステーションとの連携は非常によいことと捉えているが、どこまでできるかなと思っている。物品の種類を増やすことが大切かと思うので、現状について質問したい。
- 事務局：那智勝浦町との連携など、他の市町の農産物を使いながら収益を見込む取組を行っていると感じている。また、古都華の加工品開発を行い年中販売できる商品づくりに努めている。更なる販売促進については、売り場面積の問題などの課題もあると聞いている。
- 岡委員：農業の近代化という観点から、大規模農業のできる用地がどのくらいあるのかを疑問に思う。地域ブランドの推進には、効率的な生産が裏で必要になるのではないかと。農業の法人化について考えを聞きたい。
- また、新規就農者数の目標は低いのではないかと。
- 北川委員：農業の法人化については、人農地プランに基づき農家個々で考える問題となっている。起業については採算が取れない状況からあまり聞かない。ただ、行政に頼るというよりは農家個々で考えるものかと思う。
- 今後、5反以上の制限撤廃により、新規就農者が増えるだろうと考えている。特にいちごなど新規就農者が増えており、最近も1名新規就農者が表れたため、設定している目標人口は達成できるのではないかと考えている。
- 中山委員長：時代に即した農業ということで、スマート農業や半農半Xなどの記載にご指摘の内容は意図されていると考える。
- 新規就農者数の目標値については、関係団体にも聞きながら、妥当かを再考いただきたい。
- イノシシ被害に関しては、広域連携とともに遊休農地を減らす、果物をほったらかしにしないなどの対策が考えられる。捕獲量が多ければ、ジビエとしてふるさと納税の返礼品として活用もできるかもしれない。

- 松名委員： 3-3 について、観光客入込数の数値根拠が知りたい。3 拠点の合計ということか。
- 事務局： その通りである。入込客数の多い施設を計上して県に報告しており、その数値を目標数値としている。
- 小阪委員： 4-1 について、町は現状パートナーシップ制度を取り入れられていないかと思うが、今後取り入れる方向で検討されるのか。
- 事務局： 事務局では把握していないので、意見があったことを担当課に伝え、計画に掲載できる内容があるか検討する。
- 岡田委員： 国際的にはジェンダー平等についての議論が進んでいる。この項でジェンダーについての記載が出ていないのは違和感がある。
- 事務局： 「性別による偏見」という表現や関連する SDGs にジェンダーについての項目を入れている。
- 中山委員長： 今のご意見について、記載を検討すること。
- 竹内委員： 4-2 について、町が公開するハザードマップの容量が重い。また画面の読み込みまでに時間がかかり、引きでみるとぼやける。下図を航空写真ではなく図面にすると改善するのではないかと思う。
- 事務局： ご意見については、担当課に伝える。
- 竹内委員： 4-3 について、高齢者が運転する車の逆走に会ったことがあった。高齢者への講習の徹底を検討いただきたい。
- 小阪委員： 子どもたちに自転車安全講習などは行っているのか。もしなければ、取組をしていただければと思う。
- 事務局： 両意見について担当課に伝え、計画に記載するか検討する。
- 中山委員長： 交通事故について、目標値「0」は困難ではないか。
- 事務局： 他市事例なども参考にしつつ、発生しないのが最良という意味合いで設定したが、担当課と変更について検討する。
- 小阪委員： 4-4 について、乗り合いタクシーの利用が土日はできない。乗りたい時に使えないことはどうなのかと思う。
- 事務局： 現在は試験運行中であり、住民からいただいたご意見への対応は、交通事業者とも協議を行ったうえで決定する予定である。
- 松名委員： デマンドタクシー、コミュニティバスについて、近大病院へアクセスできない現状がある。公共交通との連携とはどのような形で行うのか。

- 事務局：交通事業者との会議を行っており、議論を行っている。
また、バス停やデマンドタクシーの行先についても順次改善を行って行く所存である。ご意見を担当課に伝える。
- 小阪委員：4-6について、子ども食堂がいつ行われているかの発信がない。
事務局：子ども食堂については、社会福祉協議会の担当となっている。町として発信強化が必要とのご意見は担当課に伝える。
- 岡委員：4-7について、総合文化センター稼働率の目標値が低いのではないかと。スタッフが揃っておらず利用する体制が整っていないかと思うが、設定根拠がどこにあるのかを聞きたい。近隣は75%程度と聞いたことがあるが、平群町も利用してもらえるよう様々な努力が必要ではないか。
- 事務局：コロナ禍前の数字を基に目標設定を行い、夜間の貸し出しも含めた数値となっている。
近隣市町の状況については資料が用意できていない。
目標値についてのご意見は担当課に伝える。
- 松名委員：「文化財について、次世代への継承を行うための活動」とあるが、具体的に何か考えているか。
- 事務局：目標指数に採用しなかったが、「展示会の回数」を担当課から目標指標の候補に挙げていたことから、そのようなことを考えていると推察する。
- 松名委員：文化財を知るきっかけをどう作るかについては、教育が重要だと思っており、学校を巻き込んだ取組が求められる。観光ボランティアガイドの会等と連携した取組なども良いと思う。
- 事務局：ガイドの会等との連携については、P72に記載がある。
学校教育に係るご意見については担当課に伝える。
- 中山委員長：4-8①ごみ減量対策について、機能転換とは何か。
事務局：清掃センターは現状各地区1施設設けているが、今後の広域連携や安定的な処理の推進を見越して記載した。もう少し具体的に各か注釈を追加するなど検討したい。
- 小阪委員：清掃センターが5年後に使えなくなるというのが周知されていない。事前の告知が町民への対応として必要かと思う。知っている人だけが知っているというのはおかしい。
- 事務局：住民との情報共有は大切であると認識している。
- 小阪委員：ごみ袋有料化の費用は、ごみの処理のために使われているのではないのか。
- 事務局：100%紐づけができていないか担当課に確認する。
- 中山委員長：文言など、引き続き検討を行うこと。

北川委員： 4-9について、平群駅前広場とは農協前と文化センター前のどちらを指すのか。

事務局： 農協前にあたる。

小阪委員： 5-1について、②住民参加型とは具体的に何をイメージしているのか。現状、へぐりマルシェなどには協力が無い。

事務局： 協力体制のもと住民にも参加していただき、街がにぎわうような仕組みづくりを構築することを意図している。イベント等についても連携・協力体制をとりたいと思っている。

松名委員： 5-2について、新公会計システムとは何を指しているのか。

事務局： 町の会計については単式簿記で単年度の決算を進めるのが従来であったが、複式簿記化に移し替えた会計システムの導入を検討することで町財政を明確に把握することを見込んでいる。

山田委員： 「クラウドファンディングによる歴史文化資源の維持管理」について意図するところがよくわからない。

事務局： わかりにくい内容になっているかと思うので、文面の検討を行う。

②まち・ひと・しごと創生総合戦略について（資料3）

事務局： （資料説明）

中山委員長： 本内容はいわゆるデジタル田園都市国家構想という位置づけにするのか。

事務局： その通りである。

中山委員長： 取組方針5とは何を指すのか。

事務局： デジタル田園都市国家構想への改訂で新設された、全ての取組に関連する方針である。

中山委員長： その旨を記載するとわかりやすい。

③平群町第2期人口ビジョンについて（資料4）

事務局： （資料説明）
（意見なし）

④その他の報告事項について

・平群町第6次総合計画骨子の変更点等について（参考資料1）

事務局： （資料説明）
（意見なし）

3. 今後の予定

以上